

切除非適応の頭蓋底腫瘍に対する重粒子線治療の概要

プロトコール番号:1805-5

治療プロトコール	切除非適応の頭蓋底腫瘍に対する重粒子線治療 1805-5
対象	脊索腫、軟骨肉腫、悪性髄膜腫、嗅神経芽細胞腫など切除非適応の頭蓋底腫瘍
治療方法	総線量 60.8Gy (RBE)/16 回/4 週間
適格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計測可能な組織学的に証明された頭頸部原発の頭蓋底腫瘍</li> <li>2. 12 歳以上</li> <li>3. Performance Status (ECOG) 0-3</li> <li>4. 新鮮例・再発例を含む切除非適応(専門医が根治的手術困難と判断した症例あるいは患者が切除を拒否した場合)</li> <li>5. NOM0 あるいは同一照射野内で治療可能な N1M0</li> <li>6. 他に重篤な合併疾患、活動性の重複癌がない</li> <li>7. 本人に病名・病態の告知がなされており、かつ本人に同意能力がある</li> </ol>
不適格条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当該照射部位に放射線治療の既往がある ただし炭素イオン線治療の既往症例についてはカンサーボードで検討</li> <li>2. 出血、潰瘍、壊死を伴う皮膚浸潤がある場合はカンサーボードで検討</li> <li>3. 化学療法を実施中あるいは照射開始時点で終了後 2 週間を経ていない</li> <li>4. 照射領域に活動性で難治性の感染を有する</li> <li>5. 生命の存続に重大な影響を及ぼす転移病巣を有する</li> <li>6. 妊娠中である</li> <li>7. 医学的、心理学的または他の要因により不相当と判断された場合</li> </ol>
治療の種類	保険診療